

給食に地元野菜の活用を

問 生徒へのアレルギー対応、衛生管理の強化の中、栄養管理を維持した上での給食コスト内で献立作りを頭を悩ませる自治体も全国的には存在するが、本市はどうか。併せて生徒1人の一食当たりの給食の平均コストは。

答 コスト面での努力において例えば天候不順で葉物野菜の価格が上昇した際には、価格の安定している地元産のチンゲンサイを使用するなど、献立の工夫を行い、また地元生産者と直接交渉・購入するなど、地場産物の活用により安定した給食の提供に努めている。生徒1人に対する一食当たりの平均コストは、平成27年度、幼稚園で576円、小学校で5996円、中学校で646円である。このうち、保護者負担は食材料費の経費であり、全体の約半額程度である。



学校給食を楽しむ生徒

ラグビーW杯

好カードの誘致を望む

問 2002年サッカーW杯ではエコパでイングランド対ブラジルの試合があり、現在まで市民の誇りとなっている。経済効果や次の10年への市民の誇りの創出として2019年も好カードの誘致を望む。

答 現在、静岡県が好カード誘致に積極的であることから、市も今後注目をして、情報を収集していきたい。

文化的施設の活用促進を

問 袋井市月見の里学遊館と袋井市メロープラザは設置目的は異なるが、文化的施設としての連携も必要ではないか。

答 イベントや講座の開催での連携は必要と認識しており、クラシックやジャズのコンサートを開催した。両施設が、市民にとって魅力的な施設となるよう連携していきたい。

眺望地点と彫刻の活用を

問 14カ所ある眺望地点と65カ所設置されている彫刻・モニュメントを、13コースの袋井遊友（ゆうゆう）ウォーキングマップへ表示するなどシティブロモーションに活用できないか。

答 現在一部の掲載のみで、今後増刷の際、眺望地点や彫刻等を表記し充実を図りたい。

原子力災害広域避難計画の策定は

問 単独災害の場合は三重県、複合災害等の場合は福井県の受け入れ自治体に対する交渉の進捗状況は。

答 三重県内29市町、福井県内17市町と避難者受け入れの課題整理の協議を開始した。各避難先市町の避難所の活用が必要であり、先方市民の了解を得て交渉していきたい。



袋井駅南口の彫刻「大地から宙へ」